The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	しあわせは地道に働く者へ
Author(s)	田中, 幸太郎
Citation	makoto. 1973, 3, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86275
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

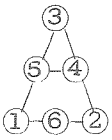
残す人とは、長い年月には大きな差ができます。手近なもうけでたくわえたものは、早くなくなりがちです。根気よく貯めたものは、根強さがあり堅実です。

昔の人のよい所を見て、将来しあわせに暮らすようにしたいものです。

第三事業部　田中幸太郎

（数字パズル解答）

頂上を3、和を9にする方法が一つだけあります。1から6までの合計は21。頂上の数字でヨコ二本を同一の和にしなければなりません。ということは、頂上は奇数であらねばならず、3か5のどちらかです。そのうち5ではナナメの和が大きくなりすぎて不可能です。（喜多）



編集後記

暑中お伺い申しあげます。

第三号は六月末には発送できる運びになりました。

これからは衛生関係だけにとらわれず、広く〝まこと〟の心にかなうよう何んでも載せてゆきたいと思っています。（喜多）

しあわせは地道に働く者へ

一銭を笑うものは一銭に泣く、と言うことや、チリも積れば山となると言う諺（ことわざ）があります。私の子供の頃の記憶に、母は嫁にやる三人の娘に、口癖のように、「一升の儲（もう）けより三合の見集め（節約）することが結果としてよい」と節約をきびしく諭（さと）していました。もちろん、私の家は農家であったから、お米にたとえて聞かせたことと思います。

今、私は仕事のことで、毎日次のようなことを繰返しています。就職者の面接に当たっていますと、三人の内一人は、給料はどれくらいですか、休日は月何日ですか、外に手当てはありますか、被服、交通費はどうなります、保険は何と何がありますか。前に勤めていた所はこれこれでした、とよく聞きます。

また、十人に一人くらいは、給料はいくらでも結構です、ただ、毎日続けて働けますか、などと聞く者もあります。前者についてだんだんと聞いてみると、前に勤めていたところは、激しい労働であり、時間も長く、福利厚生施設もなく、もちろん保険もありません。その上天候その他のため、一ヵ月のうち働ける日は、二十日に満たない所が多いということです。

こんな人と面接したとき、いつも母のことを思い出し、いや、ああじゃ、こうじゃと話をして雇った人が多くいます。そういう人たちが、今も毎日楽しく仕事をしていますが、たまに話し合うと、やはり同じことです。と漏らしています。

その日その日は少しぐらい少くても、まじめに働くことです。かりに五千円もうけて五千円使う人と、三千円もうけて三百円